

青森と秋田の旅 2025



2025 年 5 月

旅のチカラ研究所 植木圭二

ゴールデンウィークの前半、フランスから来た友人に北国の春を体験して欲しくて、日本人の友人たちも誘って青森県と秋田県を巡ってきた。そして桜、温泉、遺跡などを堪能してきた。

第一章 桜のもてなし

■旅の始まりはフランス人

今回の旅はフランスに住む友人が日本にやって来ることから始まった。そのフランス人の名前はドミちゃん、私よりも 10 才くらい若く、日本の神道や茶道をこよなく愛する紳士だ。日本人よりも日本人らしいと言っても過言ではないだろう。

彼と私の出会いは複雑かつ奇妙だが、簡単に言うと友達の友達は友達という間柄で、3 年前に知り合い、一昨年には一緒に山形旅行にも行った。(旅行記「東京小旅行 2022」、「山形探訪の旅 2023」、「YAMAGATA」参照)

今回の旅のコンセプトは「フランス人も魅了する北国の春」として、“北国”つまり青森県と秋田県に特化した旅を企画した。その企画に私の旅友の女性 4 人と男性 1 人も乗っかり、私も含めて“男女 7 人旅物語”が動き始めた。

■感激の弘前公園の桜

年が明けてドミちゃんの来日日程が決まり、一緒に行く旅行の開始日が 4 月 27 日に決定した。それから私は具体的な旅の計画を立てはじめた。

ゴールデンウィーク (GW) の少し前くらいが、青森県の弘前城の桜が見頃になる。弘前城の桜は日本三大桜の名所で、実は私もこの時期に弘前に行ったことがなく、まずはその桜に賭けてみることにした。

ちなみに三大桜の名所の他の 2 カ所は高遠城址公園 (長野県伊那市)、吉野山 (奈良県吉野町) と言われている。

4月27日の昼過ぎ、弘前城に到着する。残念ながら小雨が降っているが、桜は少し散り始めながらも満開と言っていいだろう。

男女7人旅物語のメンバー全員が弘前城の桜は初めてで、誰もが驚き感激している。



【弘前城内の桜】

弘前城の桜の花見客は例年 240 万人前後で、弘前市の人口 16 万人に対してこの数字は驚異的だろう。城内にはソメイヨシノを中心に約 50 種類、約 2600 本の桜の木がある。上野公園の桜の木は約 1000 本ということだから、その規模が分かる。

「ドミちゃん、凄いでしょ！これが日本一の桜よ」と女性メンバーがドミちゃんに言うと、彼は「私は初めて桜の花見をしましたが、こんなに素晴らしいものとは思っていませんでした」と感動を隠せない。それもそのはずでフランスにはほとんど桜の木がないらしい。

散った桜の花びらが水面を埋め尽くす花筏（はないかだ）も、弘前城には濠がたくさんあるので見る機会が多い。ただ花筏は少し早いかもしれない。



【城の濠の花筏】

■ 天守閣

天守閣は、元々は濠に面した石垣の上にあったが、石垣の修理のために 2015 年に移動させて、現在は本丸の中心付近にある。だから仮置きと言った方がいいだろう。天守閣は 3 層で高さ 14.4m、総重量約 400 トンもあり、その移動は“人力”によって行われ、約 3 カ月を要した。

実は 10 年前、私は人々が引っ張って天守閣を移動させているニュースを見ていた。



【移動されて本丸の真ん中にある天守閣】

弘前城の天守閣の移動は明治時代にもあった。石垣の崩落が起こり、放置すると天守閣まで崩落するので、1897 年（明治 30 年）に天守閣を移動させた。そして修理中に別の石垣が崩落したので、最終的に元の位置に戻ったのは 1915 年（大正 4 年）だった。

その時も人力で移動させており、その記録が写真付きで看板に書かれている。天守閣の移動というのは極めて珍しいことだが、弘前城ではそれを 2 度も行っている。

地盤が軟弱なのか、石垣の設計ミスか、あるいは北国特有の寒さや雪の問題なのか、その真相を私が知る由もない。ただ弘前城の周辺やそれより北には名城と呼ばれる城がない。ひょっとして函館の五稜郭を西洋式の城にした理由は北国特有の雪や寒さなのかもしれない。

■ 桜のトンネル

天守閣のある本丸から西へ降りると西濠があり、その兩岸にもたくさんの桜の花が咲いている。特に本丸に近い方の岸には約 360m 続く道があって、道の左右から桜がせり出して「桜のトンネル」と呼ばれる人気スポットになっている。

パンフレットによれば、見せ方を研究して桜の木が両脇から道を包み込むように意図的に剪定しているという。

花見客は桜のトンネルをキョロキョロ見ながら写真を撮りながら歩いている。それは“お上りさん”が銀座を歩いているようで、やや滑稽だ。世界中を旅して多くの絶景を見てきた男女 7 人旅物語のメンバーたちも、お上りさんになってしまうほど見事な桜のトンネルということになる。



【桜のトンネル】

■桜のハート

桜のトンネルを見終えると、花見客が集まっている場所がある。その先にも桜の木があり、その花はハート形に抜かれている。つまり桜の花の間からハート形の空が見ることができる。残念ながら今は曇り空だが、晴れていればピンクの桜の花によるハートの青い空を見ることができる。

私はここであることに気が付く。それは見事なハート形になるように毎年意図的に桜の木を剪定しているのに違いない。



【私が撮影した桜のハート】



【弘前観光協会 HP の桜のハート】

■期待と落胆、偶然と感動

それにしても弘前観光協会の HP の写真は見事だ。凄腕のカメラマンが撮ったものだろう。

見事な写真を見て期待をして現地に行くと、それを裏切る結果になることが多々ある。私はそれを「期待と落胆」と呼んでいる。そうなる理由は、それらの写真の多くは場所と時間を選んで最高の機器と技術で撮るからだ。

逆に本物を見て、予想や期待を超えた時に感動が生まれる。偶然遭遇したものほど大きな感動になる。私はそれを「偶然と感動」と呼んでいる。今回の弘前城の桜は「偶然と感動」と言ってもいいだろう。

旅は「期待と落胆」と「偶然と感動」が表裏一体で進んでいく。だから変化に富んで面白い。

■驚きのドーマーイン

初日の宿「ドーマーイン弘前」にチェックインする。実は今年 2 月ドーマーイン秋田に泊まって、その時は 7 千円台だった。その設備やサービスが非常に良かったので、今回も同じドーマーインの弘前を予約しようとしたら 2 万円以上だった。(旅行記「秋田の旅 2025」参照)

思っていた価格と大幅に違うのでホテルに電話して聞いてみると、「桜まつりの期間はこの値段になります」と言われた。さらにインターネット予約を受け付ける前なのに既に部屋は満室近くになっていて、慌ててその時に予約した。

ちなみに弘前市内の他の宿も、この時期は宿泊費が跳ね上がっており、予約も取りにくい。

どうして私がドーマーインに固執したかというと、このホテルにはたくさんの無料サービスがあるからだ。ウェルカムドリンク、大浴場と露天風呂とサウナ、湯上りのアイスクャンディー、夜食のラーメン、深夜のカップ麺の配布、朝食もビジネスホテルのレベルを超えている。

翌朝、女性陣がフロントで「カップ麺を昨晚もらい忘れて・・・」と言って 7 人分をもらっている。深夜のカップ麺は夜中に腹が空いて眠れない人のためであって、それを翌朝もらいに行くとは大した根性だと感心する。それに応えてカップ麺を渡すフロントも素晴らしい。

実は私たち男性陣も昨晚カップ麺をもらっており、結果として 2 重取りになった。まあ今回は高い金を払っているから許してもらおう。

第二章 温泉

■酸ヶ湯温泉で混浴

青森県の「酸ヶ湯温泉」は、毎年積雪が 10m 超という豪雪地帯にある。桜が咲くこの時季でも雪が積もることもあるので、今回はスタッドレスタイヤ装着のレンタカーを借りている。



【酸ヶ湯温泉の駐車場】

GW なので大混雑を予想していたが、そうでもない。秋の紅葉の時期に比べればかなり空いている。酸ヶ湯温泉は紅葉か雪景色のイメージが強く、新緑の春は案外穴場かもしれない。

私は 1976 年 7 月に大学時代の日本一周旅行でこの温泉に立ち寄り、2022 年 10 月にも再訪している。約 50 年前も 3 年前もいずれも混浴だが、時代に応じて少し変化している。

酸ヶ湯温泉は pH1.5 の強酸性の硫黄泉で白濁している。混浴の千人風呂という大きな浴槽の内湯が有名だ。

混浴とはいえ脱衣所は男女別で、50 年前は浴槽から女性入口が丸見えだったが、3 年前には女性入口を隠す長い衝立ができていた。その衝立に隠れて白濁の湯に浸かって湯の中を移動すれば混浴の大きな浴槽に出てこられる。私はそのことを女性陣に事前に伝えていた。

時代の変化で女性は湯あみ着で入浴することが許されているが、私の一言を信じて女性陣は豪快にも全く隠すことなく入ってきたという。ところが女性入口が少しだけ見える隙間があって、彼女たちは男たちの強い視線を感じたと言っている。

私は「いい思い出になったでしょう」と女性陣に言うと、「植木さんも見たでしょう」と追及される。私は「見ていないよ、ドミちゃんは分からないけど・・・」と苦し紛れに言い逃れをすると、ドミちゃんは「ヌレギレです」と言っている。女性陣は「フランス紳士はそんなことしないわ、それに濡れ衣なんて難しい日本語を知っているから許してあげる」と冤罪から逃れることができた。



【千人風呂 手前と奥が混浴で、右側の衝立の向こうに女性入口がある（宿のHPより）】

■強力な玉川温泉

秋田県の八幡平にある「玉川温泉」に泊まる。私が知る限り世界で最も酸性が強い温泉で、私は 2022 年 10 月にここを訪れている。さらに同じ源泉で姉妹館の新玉川温泉も同年 7 月に訪れているので、都合 3 回目になる。（旅行記「東北秘湯の旅 2022」、「北東北の旅 2022」参照）

酸性度を示す pH は、7 が中性で、数字が小さくなるほど酸性が強くなる。強酸性で有名な草津温泉の pH は 2.0 前後で、玉川温泉は 1.13 だから一桁違う。一桁という意味は、pH は対数なの

で濃度が 10 倍変化して数字が 1 つ変わる。つまり pH1.13 を 10 倍に薄めると pH2.13 になる。いかに玉川温泉が強酸性かが分かる。ちなみに胃液の pH は満腹時 4、空腹時 2 程度だという。

玉川温泉の大浴場には源泉 100%と書かれた浴槽がある。しかしいきなり 100%に浸かるのは危険なので、希釈した湯もあり、蒸し風呂、打たせ湯、立湯といった浴槽もある。

私は入浴前に「凄い刺激だから、この前一緒に入った友人は“アソコ”がヒリヒリすると言っていた」と皆に伝えていた。

湯上りのドミちゃんに聞くと「やっぱりヒリヒリです」と言っている。ちなみに女性陣も同じことを言っている。



【玉川温泉の各種浴槽 (玉川温泉の HP より)】

玉川温泉は強酸性の湯だけでなく、岩盤浴をすると地面から噴出する気体を吸い込む吸引泉になり、ラジウムも含むから放射線療養も期待できる。そのため現代医学から見放された患者が最後に頼る温泉としても有名で、長期療養する湯治客も多い。

その岩盤浴を行う小屋は宿から歩いて数分の場所にあり、小屋の中では湯治客が岩盤の上に御座を敷いて毛布を掛けて寝ている。小屋の周りは硫黄泉が噴き出し煙も上がっており、地獄のような景色になっている。これでは邪気も病気も吹き飛ばしてしまうだろう。



【玉川温泉の岩盤浴を行う小屋】

仲間の 1 人が岩盤浴をして 100%の湯に浸かったら、あまりに強力で体調に異変をきたす事態になった。体調を崩したのではなく、邪気が体内から退散して清い人間になったのかもしれない。さすが現代医学を超えた温泉だ。だから新玉川温泉には看護師が常駐して入浴指導をしている。

■再び混浴

青森県の日本海側に「黄金崎不老ふ死温泉」という一件宿がある。湯は茶褐色で、海岸の岩場に造られたひょうたん型の露天風呂が有名で、日本海に沈む夕日に映えて茶褐色が黄金色になる。

吹きさらしのロケーションなので、入浴の可否は天候に左右される。

私は 1998 年 11 月にこの宿に泊まり露天風呂に入ったが、2022 年 10 月は強風で入浴禁止だった。冬の日本海は荒れるから冬の入浴禁止は想定できるが、秋でも入浴確率 1/2 しかない。

そして今回は春、入浴可になっている。やはり北国の春は幸運をもたらしてくれる。

この温泉も混浴で、酸ヶ湯温泉で懲りたのか、女性陣は湯あみ着を借りて入浴したいと言っている。その準備もあって、男性陣が先に露天風呂で待つことになる。

男性陣が入って間もなく、歳の頃なら 30 代のカップルが入ってきた。女性はスッポンポンで何も着けていない。私たちは目のやり場に困ったが、実際には困っておらず、時々彼女の方をチラ見しながら世間話に華を咲かせるという高等テクニックを多用する。

驚いたのはドミちゃんだろう。フランスには裸で混浴する習慣は全くない。おそらく彼にとっては生まれて初めての経験だろう。

若い女性の裸はもちろん良いが、大きな波が岩に当たり水しぶきを上げる圧倒的スケールの日本海もとても素晴らしい。

この野趣満点な混浴露天風呂をドミちゃんは大そう気に入ったようだ。彼は「私の人生で、最高の温泉です」と言っている。

そんな会話をしていると女性陣が入ってくる。男性陣は海を観ながら「遅かったね」とさり気なく言い、30 代カップルと他愛ない旅行談議が始まる。



【ひょうたん型の茶褐色の露天風呂の昼間の様子と夕景（宿の HP より）】

第三章 昔はこうだった

■ランプの宿

青森県の南部に未だに電気が来ていないランプの宿「青荷温泉」という一軒宿がある。

私は1994年9月に家族と両方の両親も連れて総勢8人で宿泊し、その翌年11月も宿泊している。2022年10月にも泊まっているので今回で4回目になる。その全てが秋なのは、紅葉にランプの灯りが似合うからだろう。

宿に入ると石油の臭いが鼻につく。暗くなりかけているので宿の至る所に吊るされている石油ランプに火を点けたからだろう。

ランプがたくさん吊り下げられている本館を通り抜けて、川を渡った離れに案内される。宿の人が気を利かせて、騒いでも他の宿泊客の迷惑にならないように離れにしてくれたようだ。

離れなので“昔はこうだった”というランプだけの生活をより一層実感できる。

部屋には電灯もコンセントもなく、携帯電話も圏外なので電波も入らない。薄暗いランプ1つが天井から吊るされているだけで、暗くて本も読めない。結局、温泉に入るか、話をするか、酒を飲むか、寝るしかない。それがこの宿の魅力なのだろう。



【泊まった離れ 左右にランプが点いている】



【ランプの灯り】

旅とは非日常だ。現代において電気や電波（情報）は日常そのもので、それが無い世界はまさに非日常になる。つまりランプの生活そのものが旅の醍醐味と言っていいだろう。

しかし電気がない昔はランプの生活が日常だった。そう考えるといつそのこと“ランプもない宿”というのも面白いかもしれない。

ランプの灯りの下、夕食も格別だ。“昔はこうだったのだろう”と想像するとより面白い。

私は焼きたての岩魚の塩焼きを手にとって豪快に食べる。30年前に来た時も岩魚を食べた。確か宿で岩魚を養殖していた。今もそうなのだろう。

岩魚の骨酒もある。塩を振らずに焼いた岩魚を熱燗の日本酒に入れたもので、香ばしさが残って実に美味しい。これがドミちゃんにも女性陣にも受けて、何杯もお代わりをしている。

料理は山菜や漬物が主体だが、津軽の郷土料理のイカメンチもある。しかしここは山奥なので、イカはちょっと違和感がある。



【食事の風景】

30 年前にはなかったが、トイレはウォッシュレットになっている。やはりトイレが綺麗でないと集客に影響するからだろう。

しかしこのトイレに驚いたのがドミちゃんだ。そもそもフランスではウォッシュレットのトイレはほとんど普及していない。だからそれは先進的なものという認識がある。それなのにランプで生活しているに何故ウォッシュレットなのか、理解できないらしい。

私は自家発電機が宿の裏手にあることを伝えようとしたが、日本文化の謎として、種明かしをしなかった。

ちなみに 30 年前も自家発電機があった。そうでないと冷たいビールが出てこない。

清々しい朝に温泉に入る。もう明るいのでランプは要らないが灯っている。おそらく一晩中灯っていたのだろう。



【朝の温泉入浴】

■三内丸山遺跡

青森空港に近い世界遺産「三内丸山遺跡」にやって来る。

私の旅行記録を調べてみると 1994 年 8 月に家族とこの遺跡を訪れている。当時の私は縄文遺跡にそれほど興味がなかった。しかし世界遺産検定のために勉強して、2022 年 10 月にも訪れている。そして今回は 3 回目の訪問になり、この遺跡のことは良く知っている。

復元された巨大な 6 つの柱の櫓（やぐら）がある。これを世界遺産だと勘違いしている人も多いが、これは“昔はこうだったのだろう”と現代人が勝手に想像して作ったものだ。

櫓の隣にドームがあって、ドームの中に大きな 6 つの穴がある。穴は直径約 2m、深さ約 2m、間隔約 4.2m というもので、発掘した時には穴の中には直径約 1m の栗の木の柱があった。これを縄文人たちは重機も使わず掘って、柱を立てた。

縄文人たちが北国のこの地で定住生活をして、共同作業で穴を掘り、柱を立てた。そしてその上に“何か”を建てた。その穴が証拠になり世界遺産に登録された。つまりこの穴が世界遺産になっている。



【復元された 6 つの柱の櫓 背後にドーム】



【ドームの中の大きな 6 つの穴】

■縄文人に想いを寄せる

ドミちゃんと私の共通の友人で“縄文人”と呼ばれている人間がいる。

その彼はスマホを持たずに電話だけのガラケーを持ち、デジカメを持たずにフィルムカメラを持っている。だから正確に言えば縄文人ではなくて昭和人だが、でもやはり縄文人の方がしっくりくるからそのままにしておこう。

その縄文人はパソコンもできないからメールも繋がらない。そこでドミちゃんはフランスから手紙で連絡を取っている。

しかしデンマークでは 2025 年末で郵便が廃止されるというニュースが報じられた。この流れはやがてヨーロッパに広がり、世界各国にも広がるだろう。そんな時代が来たら縄文人の彼は一体どうするのだろうか。

ランプの宿でも始めるのだろうか。いや“ランプもない宿”がいいだろう。それこそ縄文人になることができる。

第四章 新しく始まる

■北国の地方都市の悲哀

買い物をするために秋田県能代市の市街地にやってくる。歩いている人はほとんど見かけず、車もあまり走っていない。商店街はシャッター通りになっており、イオンモールに立ち寄るが、GW の祝日なのに閑散としている。

能代市は人口 4 万 5 千人の典型的な地方都市で、人口減少により活力がなくなって、死に絶えた街のような姿をさらしている。

最近はどこに行っても同じように閑散とした地方都市を多く見かける。それでも都市と名が付く場所はまだいいが、農村や漁村、山間部はもっと深刻な状態になっている。

この問題は根深い。少子高齢化だけでなく、大都市と地方との格差、太平洋側と日本海側の格差、雪が降る地方と降らない地方の差など、複雑で簡単ではない。

■何かが始まる予感

ところが“ある店”に立ち寄ったら、都会と同じか、それ以上に賑わっている。人々は次から次へと車で来店し、そしてたくさんの商品を買い込んで車で去っていく。さすがに歩いて来店する人はいないが、来店する車の台数には驚いてしまう。

ある店とは洋菓子店の「シャトレゼ」で、日本国内に 600 店舗展開して、秋田県内に 9 店舗あって能代市にも 1 店舗ある。

その人気の理由は安くて美味しいことだが、うがった見方をすると他に楽しみがないということだろう。だから家に籠ってケーキを食べることが幸せな時間なのかもしれない。

それでもシャトレゼの賑わいは、人々がこの地で楽しみを持って暮らしている証（あかし）と言ってもいいだろう。そんな些細な証でも、北国で“何かが始まる予感”がしてくる。

■貸別荘は秘密基地

今宵の宿は、秋田県の日本海側の北部にある貸別荘「CRANDS」を予約している。平屋の建物が 1 棟だけで 1 日 1 組の貸し切りになっている。

国道 101 号線沿いにあるが、国道といっても車の通りは少ない。すぐ近くを JR 五能線が通っており、最も予約が取りにくい列車“リゾートしらかみ”が通過する。海にも近く、宿から海を見ることができる。



【CRANDS の外観】

建物の中に入ると、リビングルームに薪ストーブが置いてある。その前にはキャンプ用のテーブルと椅子が置かれている。男女別トイレ、シャワーと浴槽があって、海を見ながら入浴できる。ウッドデッキがあって BBQ も楽しめる。キッチンには調理器具がそろっている。



【リビングルーム】



【バスルーム】



【ウッドデッキ】

ベッドルームは2つある。その一つにはロフトがあり、上にも下にも布団が2組ずつ敷いてある。4人寝ることができるのでこの部屋が女性の寝室になる。

もう一つの部屋にも布団が2組敷いてある。しかしこれでは男3人は無理と思って部屋の中を見回すと、部屋の隅に2階建ての小屋のようなものがある。小屋の入口付近にはマットと寝袋があり、この中で寝ることができる。

するとドミちゃんが小屋にマットと寝袋を持ち込んで“秘密基地”を作り始めて、「私はここがいいです」と宣言している。余程気に入ったようだ。

玄関から中に入った廊下の壁には色々な会社名や個人名が書かれたプレートがたくさん貼られている。

おそらくこれらの会社や個人からクラウドファンディングで資金を募って、この建物を建てたのだろう。こんな田舎（失礼）でもそんな方法でビジネスを始めるといふ現実に驚くばかりだ。



【ドミちゃんの秘密基地の小屋】



【会社名や個人名の書かれたプレート】

この宿は単なる貸別荘ではない。アウトドア感覚だからグランピングと言えないこともないが、ちょっと違う。外観は普通の一軒家でも遊び心満載で、ドミちゃんの行動からして“秘密基地”と呼んでもいいだろう。

この秘密基地に皆は感動している。旅の疲れもあるのに活き活きとして目が輝いている。

ドミちゃんが私に「どうやってこの宿を見つけたのですか？」と聞いてくる。私は「KKD だ」と答えると、彼は首をかしげている。私は「K は経験、K が勘、D は度胸で、エンジニアが使う技術用語だよ」と答える。そうは言ったもののよく考えると全く科学的ではない。思い付きや偶然の結果を KKD としているに過ぎない。

しかし彼は「どうしたら、それができますか？」とさらに聞いてくる。私は「“選ばれた男”のみそれができる」と説明すると、彼は「私も選ばれたいです」と言っている。

GW とはいえ北国は夕方から寒くなり、薪ストーブに火を入れる。都会でも薪ストーブは人気だが、薪代が高いことが玉にキズだ。しかしここには薪が豊富にあって、使い放題なのがあるがたい。

初日のドリーインと同じで、私たち男女7人旅物語は、無料サービスに弱い。

■還暦パーティー

実は今回の来日中にドミちゃんが 60 歳の誕生日を迎える。そのことを例の縄文人から聞いていた。そのため私たちは還暦パーティーの準備をドミちゃんに知られないように進めていた。

フランスには還暦を祝う風習がない。そもそも還暦とは中国から日本に伝わったもので、「元の暦に還る」という意味になる。暦とは、方角を表す“十二支”と、数詞の“十干（じっかん）”の組み合わせが 60 年で一巡する。

つまり 60 歳で、生まれた年に還る。生まれ直しとも言われ、赤ちゃんに還るから“赤いちゃんちゃんこ”と“赤い帽子”で祝う。ちなみに 120 歳を大還暦、30 歳を半還暦ともいう。

準備も万端で還暦パーティーが始まる。ドミちゃんは女性陣が用意してきた赤いちゃんちゃんこを着せられ、赤い帽子をかぶせられて、キョトンとしている。

皆で、“ハッピーバースディ”を歌うとようやく気が付いたようだ。



【誕生会の飾り】



【還暦パーティー】

私たちは事前に彼の好物を聞いており、大好物の鰻重を能代市内の鰻屋で買い、フランス料理のポトフを作り、シャトレーズで誕生ケーキを買っていた。

フランス産のスパークリングワインで乾杯して還暦パーティーが始まる。

リビングルームの薪ストーブの隣には、プロジェクターとスクリーン、スピーカーも用意されており、スマホを繋げば簡単に音楽を流し映像を映し出せる。

誰かが「1人、1芸だよ」と言って、芸出し大会が始まる。母校の校歌、落語、銭太古、鬼のパンツの踊りと歌、昔のアイドル歌手のモノマネも出てくる。そしてドミちゃんも日本語で矢沢永吉を熱唱してくれる。

秘密基地で不思議な力をもらった私たちは、夜遅くまで盛り上がり続けた。



【リビングルームのプロジェクターとスクリーン 壁に CRANDS の文字飾りがある】

■日本語の名前

パーティーの中での話だ。

ドミちゃんは日本大好きなので、日本語名を持っている。といっても彼が勝手に名乗っているのに過ぎない。その名を“竹田ドミ”と教えてくれるが、どうして竹田なのかを聞くと、何となく気に入っているだけと言っている。

だから竹田にケチをつける気はないが、竹田の姓にドミという名はどうもしっくりしない。

そこで私たちはドミを漢字にすることにして、様々な漢字の名前を挙げる。「土見、度実、戸身、努三・・・」どれもパツとしない。

誰かが「“道美”はどうだろうか」と言い出し、「美しい道ということで茶道家にはもってこいだ」と言うと、皆も賛同して道美になる。

日本の北国の地で、還暦を迎えた竹田道美が新しく生まれた。

■新しい芽

新しく生まれると言え、青森と秋田の北国もそうだろう。今は死に絶えた街でも、シャトレ一ゼが進出し、フランス人も大感激する秘密基地がクラウドファンディングで出来ている。

生まれ変わる兆し、新しい芽を感じさせてくれる。

振り返れば、北国の地は縄文時代から栄えて、温泉文化が生まれ、ランプの生活が始まる。立派な城が造られ、城の桜は毎年春になれば咲き誇る。北国の春は遅いが、春は必ずやって来る。

既に春夏秋冬の季節ごとに観光の芽は出ている。

春は、花見だ。弘前城の桜はもちろんのこと、秋田の角館の桜も有名だ。

夏は、祭りだ。新青森駅には「青森ねぶた」、「弘前ねぶた」、「五所川原立佞武多」が飾ってあった。秋田は「竿灯まつり」が有名で、「大曲の花火」は日本三大花火大会になっている。

秋は、紅葉だ。北国は寒暖の差が大きいから紅葉が綺麗で、八幡平や八甲田は有名だ。

冬は、雪だ。豪雪を売りにした津軽の「地吹雪ツアー」は雪の降らない外国の人々に人気がある。「横手のかまくら」も貴重な体験になる。

アクセスも昔に比べると各段に良くなっている。東京駅で新幹線に乗れば、乗り換えなしで新青森駅や秋田駅に3時間台で来られる。

青森空港は国際空港で韓国の団体客で賑わっていた。空港のロビーの天井には大きなデジタルサイネージがあって、私たちを満開の桜の花で迎えてくれた。



【青森空港のロビー】

青森と秋田の北国の地では新しい芽が出ている。私はその芽が大きくなる姿を見届けたくなり、竹田道美に英語で「I want to come again（また来たいね）」と言うと、彼は右手の親指を立ててフランス語で「C'est vrai（そうだね）」と微笑みながら応えてくれた。

第五章 旅の記録

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひよい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。あれこれ話し合っ

て委員会として評価値を算出する。ただし今回は私1人の意見で決定した。評価項目は泉質、風呂、料理、コスパ、サービス、建物・部屋、立地環境の7項目で、平均値を総合点としている。温泉は泉質と風呂で分けており、立地環境はかつて秘湯度という項目だったが、都市型の温泉もあるのでロケーションを評価するようにした。

評価基準は5段階としてその定義は、5は驚き感動、4は普通に良い、3は可もなく不可もない、2は普通に悪い、そして1は失望落胆としている。

「ドーマーイン弘前」は、泉質4、風呂4、料理5、コスパ3、サービス4、建物・部屋4、立地環境5、総合点4.00になった。料理は朝食のみで評価し、コスパは今回の金額で評価した。

湧出温度は43.6℃、pH9.25、泉質は低張性アルカリ性高温泉になっている。

玉川温泉は泉質5、風呂5、料理3、コスパ4、サービス3、建物・部屋3、立地環境5、総合点4.00になった。

湧出温度97.3℃、pH1.13、泉質は強酸性高温泉になっている。

青荷温泉ランプの宿は泉質4、風呂4、料理4、コスパ3、サービス4、建物・部屋4、立地環境5、総合点4.00になった。

湧出温度47.5℃、pH7.75、泉質は低張性アルカリ性高温泉になっている。

■旅の記録

実施は2025年4月27日（日）～5月1日（木）の4泊5日で、その行程を示す。尚、本文中の順番は旅行記に都合で変えており、こちらの行程が実際のものになる。

- ・1日目 自宅を出て東京駅9:36発の新幹線に乗り、車内で手作りの朝食兼昼食の弁当
12:34 新青森駅着、レンタカーを借り、13:55 青森空港着の関西組をピックアップ、
15時ドーマーイン弘前にチェックイン、弘前城で桜の花見、
17時30分にホテル近くの居酒屋「あん梅」で夕食

- ・2日目 宿を10時30分に出て、12時に「酸ヶ湯温泉」で立ち寄り湯、昼食を抜いて15時30分に「玉川温泉旅館」にチェックイン、旅館敷地内を散策
- ・3日目 9時に宿を出発し、能代市内のうなぎ屋、イオンモール、シャトレーズで買い物、14時に貸別荘「CRANDS」に到着、遅い昼食を食べて、還暦パーティー開催
- ・4日目 海岸を散策し、10時に宿を出て、11時30分「不老ふ死温泉」に立ち寄り湯、不老ふ死温泉で昼食、16時20分にランプの宿「青荷温泉旅館」チェックイン
- ・5日目 9時に宿を出て、「三内丸山遺跡」見学、12:45 青森空港発で帰る関西組と別れ、駅の食事処で昼食、14:17 新青森駅発の新幹線に乗り 17:32 東京駅着、東京駅近くの天ぷら屋で打ち上げ、解散して帰宅

費用は1人当たり約9万円（青森までの往復交通費約4万円は別途）、詳細を以下に記す。
尚、費用は全て7人分で記載している。

交通費 64353 円 ÷ 7 = 9193 円

レンタカー	49490 円
青森空港有料道路	440 円（初日と最終日の往復）
高速道路	4100 円（ETC）
ガソリン代	10323 円

宿泊費 438850 円 ÷ 7 = 62693 円

ドーマーイン弘前	154350 円（朝食、夜食付き）
玉川温泉旅館	98510 円（2食付き、夕食時のビール等含む）
CRANDS	65000 円（素泊まり）
青荷温泉	120990 円（2食付き、夕食時のビール等含む）

宿以外の食費 73210 円 ÷ 7 = 10459 円

1日目夕食	29890 円（居酒屋あん梅）
2日目昼食	0 円（朝食が遅かったので昼食なし）
3日目昼食	31500 円（鰻重をテイクアウトして CRANDS で食べる）
3日目夕食、翌朝食	11543 円（CRANDS での自炊食材等）
4日目昼食	11820 円（不老ふ死温泉のレストラン）
5日目昼食	0 円（各自負担）

その他 41532 円 ÷ 7 = 5933 円

弘前城入場料	2240 円
三内丸山遺跡入場料	3500 円
酸ヶ湯温泉入浴料	6000 円
不老ふ死温泉入浴料	10700 円（浴衣、湯浴み着含む）
飲み物つまみ等	19092 円